



愛知県の自動運転に係る取組について

愛知県経済産業局次世代産業室
デジタル戦略調整グループ



愛知県の自動運転の取組

愛知県による先進的な実証実験を実施するとともに、「あいち自動運転推進コンソーシアム」において市町村の実証実験を支援するなど、自動車産業分野の新技术開発を促進

2016～2020年度

2021～2024年度

テーマ

自動運転技術の向上

交通事業者等が実運行で再現可能な
ビジネスモデルの構築

エリア

県内20市町
(名古屋市、豊橋市、豊田市、刈谷市等)

- ・ショーケース(中部国際空港及び周辺エリア)
- ・集客施設(愛・地球博記念公園)
- ・都心(名古屋市内)

車両



バン型車両
【ティアフォー】



小型バス車両(常滑市)
【先進モビリティ】



セダン型車両(名古屋市)
【モービルアイ(イスラエル)】

2023・2024年度の取組

【2023年度】

交通事業者等が実運行で再現可能なビジネスモデルの構築を目指した実証実験

- ✓ 都心の道路環境に対応したスムーズな自動走行(名古屋市)
 - ・幹線道路の車速に対応した自動走行
 - ・交通量の多い中での右左折等の自動化
- ✓ 一般客向けの定期運行(常滑市)
 - ・一般客向けに3か月にわたり運行
 - ・長期間の運行による風雪等への対応
- ✓ 将来の無人自動走行に向けた検証(長久手市)
 - ・外周園路の自然環境等に対応した自動走行技術の検証
 - ・無人自動走行に向けた遠隔監視体制の構築



【2024年度】

名古屋駅付近とSTATION Ai間で定期運行を開始するほか、中部国際空港島及び周辺地域や、愛・地球博記念公園において実証実験を実施

〔実証車両〕



ミニバン型車両(名古屋市)
【MayMobility(米国)】



小型バス車両(常滑市)
【ティアフォー】



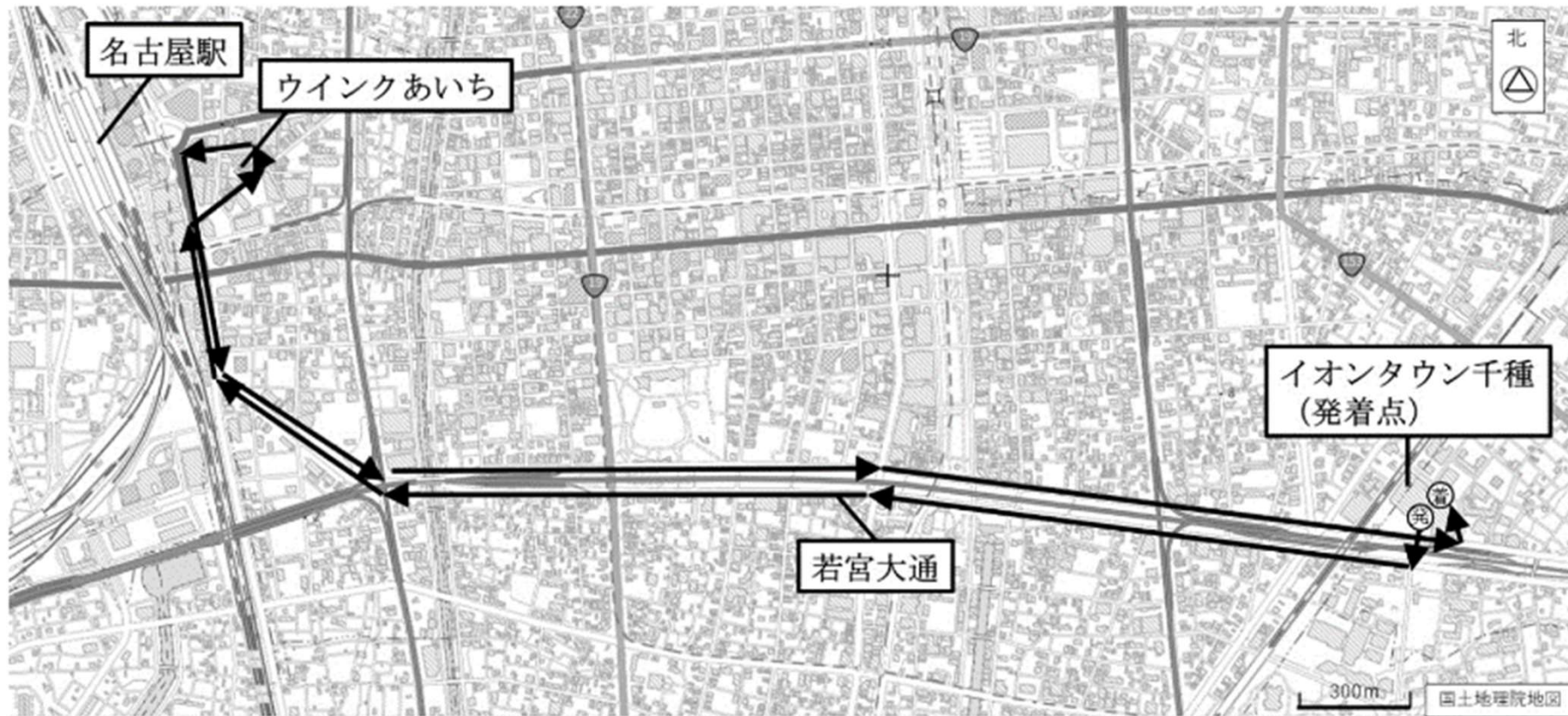
中型バス車両(常滑市)
【先進モビリティ】



大型バス車両(長久手市)
【ティアフォー】

自動運転実証実験 名古屋市内 (2023年度実績)

テーマ：都心の道路環境に対応したスムーズな自動走行



モビルアイ社実験車両

- ・名古屋駅付近とイオンタウン千種を結ぶ若宮大通を中心としたルート(約9.2km)を走行
 - ・名古屋市内の幹線道路を周辺の車速に対応して走行
 - ・道路環境の変化を即座に把握し、停車車両の回避や右左折、車線変更を自動で実施
- ⇒交通量の多い都心部での走行は自治体として全国初

自動運転定期運行 名古屋市内 (2024年度)

走行日程：
2024年11月7日～2025年3月19日

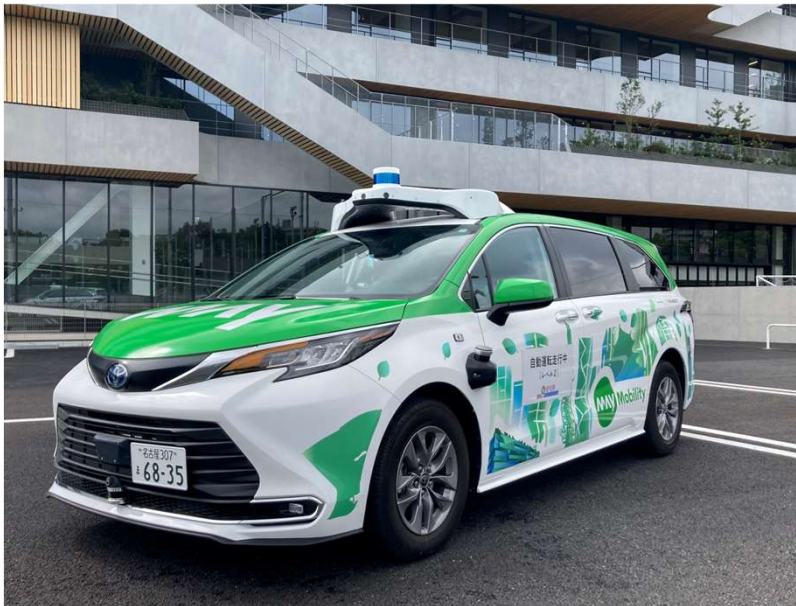
取組目的

- ・都心の幹線道路に対応した自動運転車の定期運行を実現
- ・長期の運行により露見する課題の抽出と対応策の検証

①内容

都市部における幹線道路の車速に沿った自動運転車両による定期運行 **全国初**

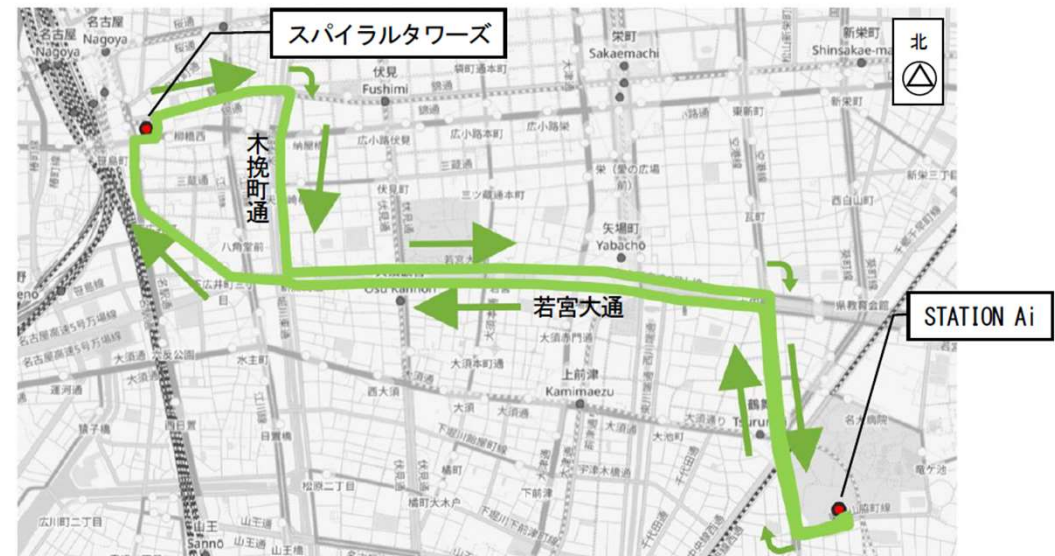
②使用車両



- ・自動運転システムを搭載する車両(ミニバン)
- ・シエナ(トヨタ自動車)をベースとした車両
- ・May Mobility Japan提供
- ・運転席は有人(セーフティドライバー)のレベル2

③通行経路

- ・名古屋駅付近から鶴舞周辺 (STATION Ai) を結ぶ若宮大通を中心としたルート (公道)



©OpenStreetMap contributors

④自動走行の特徴

- ・交通量が多い幹線道路で約5か月の長期にわたり、周囲の状況に合わせた走行を行う自動運転システムの安全性及び実用性を検証
- ・予約から乗降車までの一連の流れを利用者自らが乗務員等の介在なく行う、将来の車内無人を想定したオペレーションの検証

自動運転実証実験 愛・地球博記念公園（2023年度実績）

テーマ：将来の無人自動走行に向けた検証

広さ 約156.8万㎡
園内にジブリパークエリアも点在



小型EVバス

- 木の枝などの小型障害物や停車車両を自動で回避
- 一部区間で**運転席無人**での運行を実施
- 遠隔管制室から配車時間を自動運転車両に指示
- **3Dマップ方式のみ**での自動走行

自動運転実証実験 愛・地球博記念公園 (2024年度)

走行日程：
2024年10月9日～2025年10月25日

取組目的

・歩車混在空間における運行の検証

①テーマ

多数の歩行者が行き交う場所での歩車共存の検証

②使用車両



- ・大型バス「エルガ(いすゞ)」をベースとした車両
- ・アイサンテクノロジー提供
- ・運転席は有人(セーフティドライバー)のレベル2

③通行経路

- ・モリコロパーク(愛・地球博記念公園) 園内バス東ルート



④自動走行の特徴

- ・歩行者が多数存在する環境下での自動運転率及び安全性確保の検証
- ・園内バス同士のすれ違い(近接走行)の検証

テーマ：一般客向けの定期運行

○パークアンドライドルート(約10.4km/往復)



○走行車両：小型バス（日野ポンチョ）



- ・3か月にわたる一般客向けの定期運行
- ・横風、雨、雪に対する耐候性の検証
- ・輸送力の確保に必須となる
立席での乗客輸送（全国初）
- ・公道での停車車両の回避
- ・逆光（西日）の影響下での信号認識

自動運転実証実験 中部国際空港周辺（2024年度）

走行日程	(1)市街地周遊ルート 2024年8月19日～2024年9月6日	取組目的	・ コミュニティバスの自動運転化を想定した定期運行 ・ 中部国際空港連絡道路を含むルートで輸送力の高い中型バスによる安定走行の検証
	(2)コンベンションルート 2024年9月12日～2024年9月14日		

①テーマ

- 市街地周遊ルート
コミュニティバスをイメージした自動運転サービスの検証
- コンベンションルート
中型バス車両による高速道路の走行検証

全国初

③使用車両

【市街地周遊ルート】
小型EVバス「Minibus」
アイサンテクノロジー提供



【コンベンションルート】
中型バス「エルガミオ」
先進モビリティ提供



・運転席は有人(セーフティドライバー)のレベル2

③通行経路・自動走行の特徴

- 市街地周遊ルート
・ 自動運転システムの連続稼働に対する安定性等の検証



- コンベンションルート
・ 強い横風やETCゲートに対する走行制御の検証
・ イベント時の輸送を想定した立席や夜間走行の検証



□ 目的

- (1) 企業・大学等と市町村との**マッチング**
- (2) **社会的受容性の醸成**
- (3) **新たな事業、ビジネスモデルを創出**

社会実装の実現

□ 事業内容

実証実験 **17**件

相談 **80**件(2023年度)

自動運転の
実証実験
支援

産学行政の
マッチング

あいち自動運転
ワンストップ
センター

先進事例の
情報共有

新事業・ビジネスモデル
創出に向けた
調査・研究

調整段階

電話・窓口
相談受付

実施者・市町村
マッチング

関係機関
調整・手続

実施段階

国等関係者
事前連絡

関係地域
周知・助言

□ 会員 (2024年10月末現在)

会 員: **143**機関

(自治体:37機関 企業:97機関

大学:4機関 関係団体:5機関 学識者:6名)